

2025 年度

KEK 寄附金 活動報告書



大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構

もくじ

2025 年度特定募集寄附金ご報告	1
寄附支援事業.....	2
KEK 未来基金	3
ILC 理解増進のための寄附金.....	9
外国人留学生奨学寄附金.....	10
PF 先端化寄附金.....	11
トピックス	12
寄附の方法	16
寄附の使途	17

2025 年度特定募集寄附金ご報告

2025 年度の寄附金受け入れ総額は、12,761,316 円となりました。ここにご報告するとともに、皆様からのご厚志に対しまして、心より御礼を申し上げます。賜りましたご厚志により、学生等への科学に対する興味・関心を高めるための事業、外国人留学生への修学支援、ILC（国際リニアコライダー）への理解増進活動など、交付金や補助金等では実施できなかった事業を進めることができました。引き続き、皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

※特定募集寄附金は KEK が規程で定める寄附金のうち機構が特定の目的のために募集する寄附金のことを指します。研究者個人や個別プロジェクトへの寄附金等は含まれません。

2025 年度収支報告（円）

寄附項目	前年度繰越	受入	支出	次年度繰越
KEK 未来基金	71,514,909	8,071,414	6,001,287	73,585,036
外国人留学生奨学金	2,412,767	144,000	1,080,000	1,476,767
PF 先端化寄附金	14,994,181	1,731,675	10,459,680	6,266,176
ILC 理解増進寄附金	1,050,180	182,536	－	1,232,716
研究等支援事業基金	3,043,225	2,631,691	－	5,674,916
50 周年記念事業寄附金	36,778,907	－	－	36,778,907
合計	129,794,169	12,761,316	17,540,967	125,014,518

年度別寄附金受入額（円）

寄附項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
KEK 未来基金	－	53,734,237	8,027,709	2,228,944	8,071,414
外国人留学生奨学金	1,370,666	360,000	110,000	30,000	144,000
PF 先端化寄附金	2,864,833	2,325,500	1,708,000	2,457,500	1,731,675
ILC 理解増進寄附金	779,833	674,000	407,000	414,500	182,536
研究等支援事業基金	759,833	974,892	315,000	993,500	2,631,691
50 周年記念事業寄附金	9,517,078	961,000	－	－	－
一般寄附金 *	3,477,362	1,381,699	－	－	－
合計	18,769,605	60,411,328	10,567,709	6,124,444	12,761,316

* 一般寄附金は 2023 年度から KEK 未来基金に統合されました。

寄附支援事業

特定募集寄附金は、現在までに「外国人留学生奨学金」、「KEK 未来基金」、「研究等支援事業基金への寄附金」、「国際リニアコライダー（ILC）理解増進のための寄附金」及び「フォトンファクトリー先端化寄附金」の 5 本が立ち上がっています。このうち、「KEK 未来基金」では、KEK が行う世界に向けた幅広い活動のうち、研究、社会貢献活動に係る実施事業について機構内募集を行い、採択された研究者、研究グループ等に支援をしています。

なお、「KEK 未来基金」の募集事業範囲は以下の通りです。

- ① 研究事業（高エネルギー加速器を用いた素粒子・原子核及び生命体を含む物質の構造・機能に関する研究。国内外の大学・研究機関、民間企業との共同利用・共同研究）
- ② 教育事業（大学の教育への協力による加速器科学関連分野の人材の育成）
- ③ 社会貢献事業（研究成果の普及及びその活用促進）教育研究プロジェクトへの支援
- ④ その他基金の充実及び目的の達成に必要な事業

KEK未来基金

◇加速器の次世代を担う技術者を育成する高専との教育連携事業

本事業では、全国の高専において学生自らが加速器の設計・製作に取り組むことで、将来の科学・産業を担う技術者・研究者を育成することを目的としています。各高専では、小型サイクロトロン加速器や電磁石、真空装置、高周波回路などの製作・評価を通じて、力学・電磁気学、電磁場解析、ビームシミュレーション、真空・計測技術など、加速器を軸とした幅広い知識と実践的な技術を習得しました。また、課題発見から設計・製作・評価までを学生主体で進めることで、主体性や問題解決能力の育成にもつながりました。

本年は、第22回日本加速器学会年会において、高専生自身がポスター発表および特別講座で活動成果を発表し、多くの研究者・企業関係者との議論を通じて、研究への理解や将来のキャリア形成への意識を高めました。その後、理化学研究所和光地区において全国7高専の学生が参加する交流会を開催し、活動報告、施設見学、企業・キャリア紹介、加速器技術相談を通じて、高専間ならびに研究機関・企業との交流を深めました。今後も本事業を通じて、幅広い科学技術分野を支える人材育成と、加速器技術の発展への貢献を目指します。



理化学研究所和光地区で行われた交流会の集合写真

◇KEK ウィンター・サイエンスキャンプ 2025

2025 年 12 月 23 日から 26 日にかけて、「KEK ウィンター・サイエンスキャンプ 2025」を開催いたしました。本事業では、全国から集まった 23 名の高校生・高専生が、素粒子・回折・加速器・放射線の 4 コースに分かれ、3 泊 4 日にわたり研究体験に取り組みました。

実習では、研究現場で実際に使用されている装置を用い、宇宙線や放射線の測定、回折格子の微細構造観察、電磁石の磁場と電子ビームの測定などを行いました。参加者は取得したデータの解析や考察にも主体的に取り組み、最終日の発表会では、それぞれが得られた成果や今後の課題について発表しました。活発な質疑応答が交わされる中、限られた期間で実験に真摯に向き合い、熱意をもって取り組む姿は、次世代を担う若者たちの探究心と大きな可能性を実感する機会となりました。

本事業は、参加者に最先端の科学研究に触れる貴重な機会を提供するとともに、KEK 職員にとっても若い世代の柔軟な発想や真摯な探究心に触れ、研究に向き合う原点を改めて見つめ直す機会となっています。これもひとえに皆様からの温かいご支援の賜物です。心より御礼申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ウィンター・サイエンスキャンプ 2025 閉会式における記念写真

◇KEK 科学と音楽の饗宴・KEK コンサート

2025 年 12 月 7 日、つくば市のノバホールにおいて「KEK レクチャー&コンサート 科学と音楽の饗宴 2025」（つくば市・つくば文化振興財団共催、高エネルギー加速器科学研究奨励会協賛）を開催しました。16 回目となる今回は約 300 人が来場しました。

イベントの第一部では、東京大学名誉教授の兵頭 俊夫（ひょうどう としお）さんによる講演が行われました。「陽電子 ー最も身近な反粒子ー その多彩な活躍」と題し、陽電子の基本的な性質からさまざまな応用まで幅広く解説しました。普段耳にすることの少ない陽電子というテーマでしたが、医療分野から素粒子や原子の基礎理論の検証まで、その多彩な利用法に来場者は興味深く耳を傾けていました。

第二部では、フラウト・トラヴェルソ奏者の新井 道代（あらい みちよ）さん、チェンバロ奏者の福間 彩（ふくま あや）さんによるコンサートが行われました。「フラウト・トラヴェルソの魅力」というテーマで、オトテールの「フルートと通奏低音のための組曲 ト長調」、ブラヴェの「フルートと通奏低音のためのソナタ ホ短調」などの楽曲を演奏し、古楽器ならではの美しい音色と豊かな表現力で来場者を魅了しました。



左から講演者の兵頭さん、フラウト・トラヴェルソ奏者の新井さん、チェンバロ奏者の福間さん

◇加速器科学インターンシップ

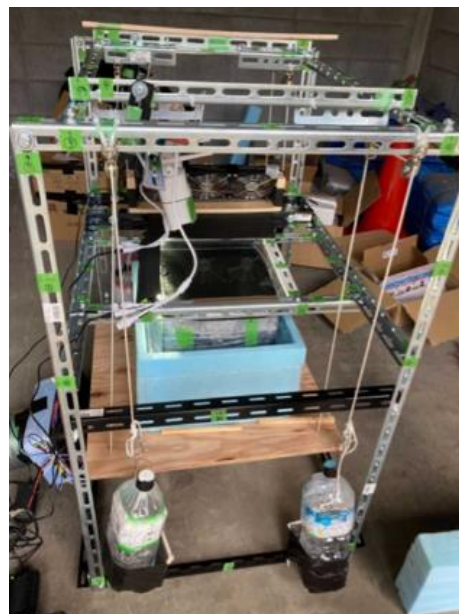
KEK では、大学学部 3 年生以上を対象とした加速器科学インターンシップを実施しています。本インターンシップは、加速器のビームを用いた実習を実施し、将来を担う学生の皆さんに、大学等の研究室では得られない経験をすることで、加速器科学への興味を持っていただくことを目的としています。

2025 年度は受入事業・体制を充実させ、J-PARC、MLF、PF-AR テストビームラインなど、多岐にわたる現場、分野にて実習を行いました。実習はいずれの学生も限られた時間を有効に使い、大学では触れることのできない装置を用いた実験を行うほか、学生が作製した制御システムを持込んで実験を行い、受入グループ内の研究者との交流も深めることができました。また、プログラムの中では研究施設の見学も実施し、KEK の研究活動について広く理解を深めてもらうことができました。さらに、少人数指導という本事業の特徴を生かして、受入教員による学生の進路相談を行い、若手人材のキャリア形成にも貢献しています。本インターンシップを通じて学部レベル或いはそれ以上の人材育成をすることができたと確信しています。

なお、参加学生から本インターンシップでの成果を報告書として提出してもらい、ホームページ上で過去に採択されたテーマとともに公開しています。これらは本事業への応募を検討する次代の学生が参照することができ、有効活用されます。



測定器開発テストビームライン
における実習風景（神戸大学の学生）



J-PARC ニュートリノにおける学生作製制御システム
を用いた実習（名古屋大学・茨城大学の学生）

◇J-PARC から未来を担う若者へ科学のたねをまこう

私たち「ぷろとんず」は、科学の楽しさを通じて次世代の研究者・技術者の育成に寄与することを目的として、2024 年に J-PARC MLF の有志メンバーで立ち上げたアウトリーチサークルです。

7 月の J-PARC 夏休み科学実験教室「すがたを変える水—雪の結しょうを観察しよう」では、歴史と未来の交流館で小学生向けの実験教室を開催しました。参加者は身近な材料を用い人工雪発生装置を作製し、水蒸気から雪のような氷の結晶が成長する過程を観察しました。さらに高圧下で室温でも氷を生成できる演示実験を行い、水が温度や圧力の条件に応じて異なる状態を示すことを体験的に学ぶことができました。

8 月の J-PARC・原子力科学研究所 施設公開 2025 では、同年 2 月に東海村立白方小学校で実施した出張授業の感想展示と、分子模型や MLF パズルを楽しめるキッズコーナーを設置しました。親子連れが休憩しながら科学に触れられる場を整えるとともに、希望者には子ども向け施設ツアーを実施し、実際の施設や装置を見学してもらいました。

本基金を通じ、子供たちの科学への関心を高め、地域の方々に J-PARC をより身近に感じてもらうことができました。皆様のご支援に多大な感謝を申し上げますとともに、これからも科学教育に貢献し続けていきます。



平松式人工雪発生装置を用いて、雪の結晶が成長する様子を観察する参加児童



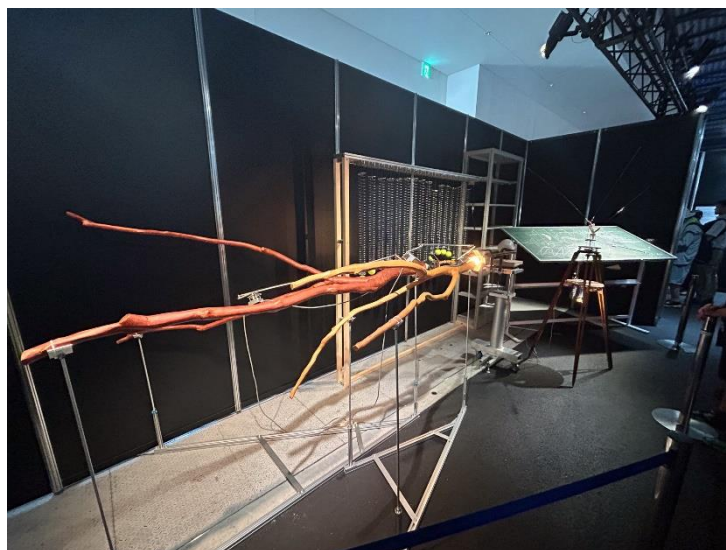
J-PARC・原子力科学研究所 施設公開 2025
における子ども向け施設ツアーの様子

◇KEK アーティスト・イン・レジデンス 2025 (KEK AiR2025)

「KEK アーティスト・イン・レジデンス 2025 (KEK AiR2025)」は、芸術家（アートユニット片岡純也、岩竹理恵の両氏）を KEK に招いて、KEK 内の宿泊施設に約 1 ヶ月滞在していただき、滞在期間中に施設見学や、研究者・学生らとの対話・交流を通じて、新たな着想を得て作品を制作してもらうという挑戦的な取り組みでした。

また、今回の KEK AiR2025 はつくば市とのコラボ企画でもあり、「つくばサイエンスハッカソン 2025」の一部として実施され、製作された作品は 2025 年 8 月 1 日（金）～2025 年 8 月 10 日（日）につくば美術館（つくば市吾妻）で開催された「つくばメディアアートフェスティバル」にて展示されました。更には、大阪・関西万博で文科省が企画、開催した「エンタングル・モーメント—[量子・海・宇宙]× 芸術」とも連携し、2025 年 8 月 14 日から 8 月 20 日にかけて作品を展示、62,360 人という多くの来場者に見学していただきました。

今回の KEK AiR2025 の取り組みは、素粒子物理学等の複雑な理論や実験技術のような、抽象的で理解が難しい事柄を、芸術家の創造力を介することで、一般の人々にも伝わりやすい形で表現し直すことができる可能性があると考えられます。芸術を切り口とすることで、科学への関心が高くない層へも KEK の研究を伝え、その社会的価値への理解を促進することが目的であり、今回のつくば美術館や大阪・関西万博での展示は、KEK の研究や活動を広報的観点から広範な層に発信し、認知してもらうことができた貴重な機会であったと思います。



アートユニット片岡純也・岩竹理恵の両氏による「KEK AiR2025」により
着想を得て製作された作品「KEK 曲解模型群」の大阪・関西万博での展示風景

ILC 理解増進のための寄附金

◇寄附金を活用したクライオモジュールの屋外展示実現に向けて検討を進めました。

国際リニアコライダー（ILC）にとって、クライオモジュールは、ILC の心臓部とも言える超伝導加速技術を実際に形にした装置です。また、クライオモジュールは、単なる「ILC 専用の部品」ではありません。超伝導加速技術、極低温技術、真空技術など、最先端の加速器技術を結集した装置であり、将来の大型加速器を実現するための重要な技術要素です。

展示を計画しているクライオモジュールは、ILC の実現に向けて各国の研究機関が共同で取り組んだ国際プロジェクト「S1-Global」で使用されたものです。日本、欧州、米国で開発された超伝導加速空洞を一つのクライオモジュールに組み込み、国際協力の下で性能試験が行われました。このクライオモジュールは、ILC の基幹技術の確立に向けた国際的な研究開発の歩みを今に伝える、歴史的価値を有する装置でもあります。

クライオモジュールの実物を屋外に展示することで、ILC 計画や加速器技術について、より多くの方々に身近に感じていただき、理解を深めていただくとともに、ILC を支えてきた国際協力の歴史に触れていただく機会を創出することを目指しています。

一方で、屋外展示の実現には一定の費用が必要であり、2025 年度時点では、本寄附金のみでは必要な費用を確保することが難しい状況でした。そのため、2025 年度においては、本寄附金を実際の展示事業には使用しておりません。今後は、クラウドファンディング等による資金調達を行い、本寄附金と合わせて必要な資金を調達しプロジェクトの実現に向かって活動を進めて参ります。



屋外展示を検討している S1-Global のクライオモジュール

外国人留学生奨学寄附金

◇私費外国人留学生への修学支援

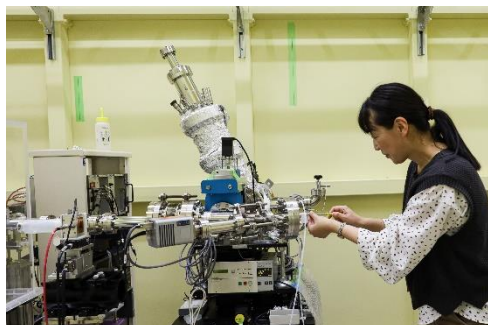
KEK で学ぶ総合研究大学院大学（総研大）の私費外国人留学生に対し修学支援を行っています。2025 年度は 1 名に奨学金を支給しました。

総研大生の約 3 割はアジア地域を中心とした海外からの留学生です。KEK では、機構の総研大の博士後期課程に入学する私費外国人留学生を対象に、優秀かつ意欲的な学生が安心して学業に専念できるよう、その修学支援を行うことを目的として、平成 26 年に「外国人留学生奨学金」を設立しました。来日・帰国時の渡航費と月額 9 万円の奨学金を支給し、採択された学生の修学と生活を支援しています。

設立から現在まで、6 名の留学生の支援を継続的に行っています。出身国はインドネシア 2 名、ベトナム・ドイツ・インド・ジョージア各 1 名で、うち 2 名が女性です。

P F 先端化寄附金

◇研究環境整備と将来計画推進のために



2 ビームが同時に照射される位置に試料を取り付ける作業。水の電気分解反応における、触媒の変化と生成物（酸素化合物）を同時に測定する



開発研究多機能ビームライン完成報告会（2025 年 11 月）

フォトンファクトリー先端化寄附金は、フォトンファクトリーの研究環境整備と将来計画推進のために、2019 年 1 月に設置されて以来、多くの方からご支援をいただいております。本寄附金を活用して開発研究と人材育成のための新ビームライン「開発研究多機能ビームライン」の建設を進めてまいりましたが、2025 年秋に建設が完了し、11 月には寄附者および関係者をご招待して完成報告会を開催しました。

実験ハッチには、寄附者のご芳名（匿名希望の方を除く）を刻んだ銘板が掲示され、完成報告会でのお披露目となりました。本ビームラインは、硬 X 線と軟 X 線の 2 つのビームを同時に同位置に照射する「量子マルチビーム実験」が可能です。これまでに、水の電気分解反応の「プローブ-プローブ測定」、およびケージド化合物の X 線誘起解離現象の「ポンプ-プローブ測定」に成功し、本手法の有効性を実証することができました。

これらの最初の成果およびビームラインの性能評価をまとめた論文を 9 月に出版しました。それに先立ち、8 月下旬にプレス発表および記者会見を実施し、多くのメディアに取り上げていただきました。詳細は右のリンク（QR コード）をご覧ください。

引き続き、本ビームラインなどを活用し、放射光科学の未来のために開発研究と人材育成に勤めてまいりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

KEK プレスリリース：開発研究多機能ビーム
ラインで量子マルチビーム実験を開始



トピックス

◇J-PARC・原子力科学研究所 施設公開 2025/KEK 一般公開 2025 で寄附金ブースを出展しました！



J-PARC・原子力科学研究所 施設公開 2025 (8 月 23 日) と KEK 一般公開 2025 (9 月 23 日) にて、寄附金ブースを出展し、事業の紹介と寄附の呼びかけを行いました。

KEK が取り組む基礎研究は、すぐに「わかりやすい成果」につながるものばかりではなく、その予算確保は年々難しくなっています。こうした状況の中で研究を続けていくためには、従来の予算に加えて、KEK を応援している（応援したい）という方々からの継続的な寄附・支援がますます重要になると考え、今回のブース出展に至りました。

イベント当日は、ブースに足を運んでいただいた来場者に KEK の寄附事業を紹介するとともに、寄附の呼びかけも行い、両日を合わせて 934,952 円の寄附を頂くことができました。ご支援いただいた皆さま、ありがとうございました。

お寄せいただいたご厚志は、KEK の研究、教育および社会貢献などの活動に活用していきます。今後とも、KEK の活動へのお力添えをよろしくお願いします。

◇寄附者への「感謝の集い」を開催しました



寄附者の方々と浅井機構長（前列中央）、
足立寄附金担当理事（後列左端）との記念撮影

12月25日、KEKに多くの寄附を頂いた個人および法人関係者の方々を招き、感謝状などを贈る「感謝の集い」をつくばキャンパスで開催しました。この催しは2017年から開かれ、今年で8回目を迎えます。

同日は、特別栄誉会員、栄誉会員、特別貢献会員、貢献会員、賛助会員の各称号をお贈りした寄附者を招待し、12人の方々が参加されました。最初に浅井祥仁機構長からのあいさつの後、足立伸一・寄附金担当理事から寄附金事業の報告がありました。続いて、浅井機構長から感謝状、記念盾の贈呈、機構の最新活動状況の説明が行われました。



感謝状贈呈式の様子

その後、参加者限定の特別見学ツアーを行いました。今回は、K2K 前置検出器跡地、QUP 新棟、ウィンター・サイエンスキャンプの3か所を見学しました。

K2K 前置検出器跡地は、2004 年まで行われていた K2K 実験（素粒子ニュートリノを加速器で人工的に作り、250km 離れた岐阜県・神岡にあるスーパーカミオカンデ検出器に打ち込む）で用いられた装置の遺構で、KEK 一般公開 2025 で 20 年ぶりに公開され、大変好評だった場所です。

QUP 新棟は、2025 年の秋に完成したばかりの施設で、量子場計測システム国際拠点（QUP）の活動拠点になる場所です。外部への一般公開はまだ行っておらず、今回が初のお披露目となりました。ツアー中は実験で使用する特殊な防音室の中も見学しました。

ウィンター・サイエンスキャンプは、高校生・高専生を対象とした科学技術体験合宿プログラムです。毎年 12 月後半に KEK つくばキャンパスで開催されており、このプログラムは頂いた寄附金により実施している事業です。今回は、キャンプ 3 日目を訪問し、課題に取り組む学生たちの様子を見学しました。

いずれの見学場所でも、寄附者の方々から積極的な質問があり、予定の時間を超過する盛況な集いとなりました。



見学の様子

左：K2K 前置検出器 右上：QUP 新棟
右下：ウィンター・サイエンスキャンプ

◇寄附者の方からの応援メッセージ

皆様から寄せられたメッセージです。

ご寄附並びにあたたかいメッセージをいただき深く感謝申し上げます。

○一般公開や施設見学で加速器や研究施設を実際に見学し、研究者やスタッフの説明に感銘を受けました。子どもと参加して楽しい時間を過ごし、KEK を応援したいと思いました。

○一般公開で訪れて施設や設備の老朽化が気になりました。研究環境の整備や改修に少しでも役立てていただければ幸いです。

○ILC の実現を願っています。

○科学の新しい発見にはいつも心がわくわくします。感動がこれからも続くことを願って。

○J-PARC や Photon Factory を見学・利用した経験から、世界に誇る研究施設の維持・発展に少しでも役立てていただければと思い寄附しました。

○BL-11A・B 多機能ビームライン完成会や機構長講演会などで研究のお話を伺い、KEK の研究をもっと応援したいと思い追加で寄附しました。

○寄附キャンペーンや企業とのコラボ返礼品は魅力的で、楽しく寄附に参加できました。

○宇宙の起源や生命の誕生、素粒子など、人類の根源に迫る基礎研究に感銘を受けました。世界をリードする KEK の研究がこれからも発展することを願っています。

○基礎研究の予算が厳しい状況だからこそ、個人として少額でも継続的に支援したいです。

○研究者の皆さんが未来のために挑戦を続けられるよう、自分がかねえられなかった研究者の夢を応援する気持ちで寄附しました。

○KEK には研究や教育でお世話になりました。元職員として、あるいは学生時代に放射光施設でお世話になった感謝の気持ちを込めて寄附します。

○福島第一原発事故以降、KEK の研究者の皆さんから多くのことを学びました。その経験への感謝と応援の気持ちを込めています。

○「大人の社会科見学」で初めて KEK を訪れて以来、研究活動に興味を持ち続けています。研究を身近に感じながら応援したいと思います。

○つくば・東海地域の誇りである KEK を、市民としてこれからも応援しています。

寄附の方法

◇寄附のお手続きについて

●Web でのお手続き

クレジットカードでご寄附のオンライン申込ができます。(個人の方からの寄附のみ対応)

●書面でのお手続き

1. 「寄附申込書」を KEK 宛にお送りください。
「寄附申込書」の様式は、KEK 寄附金ページからダウンロードするか、担当係までご連絡願います。
2. KEK からお送りする振込依頼書により、金融機関から指定口座へお振込み願います。
なお、振込手数料は KEK で負担しますので、その分を差し引いて振込ください。
3. ご入金を確認できましたら領収書をお送りいたします。
※送付まで 2 週間程度必要とする場合がございます。予めご了承ください。

◇税制上の優遇措置

●個人の方々からのご寄附

機構への寄附については、寄附金額（所得の 40%を上限とする）から 2,000 円を差し引いた額を、寄附された年の課税所得から控除（所得控除）することができます。なお、控除されるのは寄附金額そのものではなく「課税所得」であるため、実際の控除額は所得税率等に応じて異なります。

研究等支援事業基金（ポスドクへの支援）につきましては、租税特別措置法に基づき若手研究者や学生を支援するための特別な税制優遇措置（寄附金特別控除）が適用されます。確定申告の際に税額控除または所得控除のいずれかを選択することができるほか、茨城県にお住まいの方は都道府県民税、つくば市または東海村にお住まいの方は市町村民税からの控除が受けられます。詳細はお住まいの自治体のホームページ等にてご確認ください。

●法人からのご寄附

KEK への寄附金については、寄附金の全額を損金算入することができます。

寄附の使途

KEK が使用目的を定めて募集している寄附金を「特定募集寄附金」としています。
現在、下記の「特定募集寄附金」について寄附をお願いしています。

●KEK 未来基金

KEK 未来基金は、研究、教育及び社会貢献活動を中心に、機構が行う世界に向けた幅広い活動への支援をお願いするものです。広範囲なサイエンスの世界的拠点としての役割を担い続けるために活用するとともに運用も行います。

●研究等支援事業基金

KEK には博士研究員など任期のある職で若手の研究者（いわゆる「ポスドク」）が新たな知の創出のため、競争的支援や機構予算による様々なプロジェクトの中で研究活動を行っています。研究等支援事業基金は、KEK に雇用されているポスドクが自立した研究者になることを促進できるように活用していきます。

●外国人留学生奨学金

KEK では、総合研究大学院大学高エネルギー加速器科学研究科の 5 年一貫制博士課程（3 年次編入学）に進学する私費外国人留学生に対し、優秀でかつ意欲的な学生が安心して学業に専念できるよう、その修学支援を行うことを目的として「外国人留学生奨学金」を設けています。

●国際リニアコライダー（ILC）理解増進のための寄附金

KEK は、加速器科学の世界三大拠点の一つとして、国際協力での様々な研究推進に貢献しています。その一つが ILC 計画です。ILC は、宇宙誕生直後の現象を徹底的に研究し未知の物理法則の解明を目指す次世代加速器計画です。本特定募集寄附金は、ILC 計画の意義を広くご理解いただくための活動に使用されます。

●フォトンファクトリー（PF）先端化寄附金

フォトンファクトリー（PF）は、X 線領域に及ぶ広範なエネルギーの放射光の利用を可能にする国内初の専用施設として、1982 年に KEK（高エネルギー物理学研究所、当時）に誕生しました。本特定募集寄附金は、PF の研究環境整備と将来計画推進のために使用されます。

■「特定募集寄附金」以外の寄附について

「特定募集寄附金」以外の寄附（研究者個人や個別のプロジェクトへの寄附金等）についても、お気軽にお問い合わせください。

大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構（KEK）
研究協力部連携推進課連携推進第二係
〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1
TEL: 029-864-5133
E-mail: kek-mirai@ml.post.kek.jp
URL: <https://www2.kek.jp/kff/>